

第V部 八木山動物公園

1 沿革と施設の概要

(1) 沿革

本市の動物公園事業の歴史は古く、昭和11年4月1日に広瀬川河畔（現在の青葉区花壇）に全国で11番目に開園した「仙台市動物園」が始まりであるが、この動物園は戦災により昭和20年7月に廃止した。その後、昭和32年10月に「子供動物園」（現在の青葉区荒巻字三居沢）を復活させ、子供たちの“大きな動物園がほしい”との声に応えるため、昭和40年10月15日に現在の太白区八木山地区に「仙台市八木山動物公園」を新設した。以来、順次施設の増設を進め、昭和53年4月に爬虫類館及びゴリラ舎、昭和62年6月にレッサーパンダ舎等を新設した。

平成元年3月には、八木山動物公園の将来への展望を「仙台市八木山動物公園基本構想・基本計画策定報告書」にまとめ、平成4年度から年次改修計画に基づき順次施設の改善に着手し、平成5年10月に南入園口（現在の西門出入口付近）を新設して入園者の利便性を向上させた。また、動物本来の生態環境を模した放飼場で動物を見せる環境生態展示を基本構想として、平成11年6月にはアフリカゾウ舎及びアフリカ平原放飼場を改修、平成14年7月に猛獣舎を改築し、環境教育にも利用できる施設となった。

平成19年10月には、「八木山動物公園運営方針―百万人の動物園を目指して―」を策定し、平成27年度の地下鉄東西線開業を見据えた魅力ある動物公園施設整備等を行うこととし、平成22年4月にビジターセンターを新設した。

また、環境教育の充実のため、平成19年10月に宮城教育大学との連携協力の覚書を締結し、野生動物を通じた環境教育プログラムの作成と実践に取り組むとともに、平成20年5月には、マダガスカル共和国のチンバザザ動植物公園と協力協定を締結し、環境教育や飼育繁殖技術の支援を行うなど、マダガスカル固有の希少動物の保護・保全活動に取り組み、平成28年度から令和元年度にかけて第2段階となる事業を実施した。

平成23年3月には、東日本大震災による被害のため休園を余儀なくされたが、迅速な応急復旧により、同年4月23日には再開園することができた。

平成24年度には、東日本大震災による社会情勢の変化や希少動物ジャイアントパンダの導入を見据えて、平成19年度に策定した「八木山動物公園運営方針」の再整備計画の見直しを行い、平成25年8月に、この運営方針の一部改定を行った。

平成27年10月15日には開園50周年を迎え、同月18日に記念式典を開催した。

平成29年4月には、八木山動物公園で初となるネーミングライツの運用を開始した。

平成29年3月に竣工したふれあい動物園整備事業では、同年4月に飲食物販棟を先行して供用開始した後、7月には「ふれあい館」を含めた施設の全面供用を開始した。

また、12月には「八木山動物公園運営方針」を改定し、当園の現状や課題を踏まえ、中長期的な観点から運営の方向性を定めた。

平成30年5月には国内で飼育されているアフリカゾウの繁殖に向け、秋田市大

森山動物園及び盛岡市動物公園と協定を締結し、国内初となるメスの交換をはじめとする3園連携による繁殖の取組みを進めている。

希少動物の繁殖については、多くの実績があり、平成31年2月にはクロサイの繁殖に成功し、令和元年10月にはスマトラトラの繁殖に成功した。

また、北海道大学と連携して人工授精に取り組んできたホッキョクグマについては、成育には至らなかったが、令和4年度と令和5年度の2度にわたり、繁殖に成功している。

令和3年8月には、老朽化した施設の長寿命化対策と動物園の魅力アップのための再整備を行うため、「八木山動物公園施設長寿命化再整備計画」を策定し、順次施設整備を進めている。

令和3年度及び令和4年度の夜間開園は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため入園制限（事前予約制）を行って開催していたが、令和5年度は、5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行となり、入園制限を行わず開催した。

また、「八木山動物公園施設長寿命化再整備計画」に基づき、12月から裏飼施設や乾燥庫、倉庫及び大型猛禽檻の工事に着工した。

(2) 施設の概要

所在地	仙台市太白区八木山本町一丁目43番地
敷地面積	121,405.00 m ²
動物舎	6,424.78 m ²
放飼場	11,773.34 m ²
治療施設	513.73 m ²
ビジターセンター	1,885.57 m ²
管理施設	1,793.74 m ²
立体駐車場	4,211.94 m ²
都市計画決定	
昭和45年6月9日	宮城県告示第451号
昭和57年1月26日	宮城県告示第100号（変更）
平成17年9月30日	仙台市告示第1156号（変更）
平成24年1月13日	仙台市告示第15号（変更）

(3) 開園時間・休園日

開園時間（3月～10月） 9:00～16:45

（11月～2月） 9:00～16:00

休園日 水曜日（ただし、水曜日が祝休日にあたる場合は、その翌日）

年末年始（12月28日～1月4日）

(4) 入園料

	一般 (高校生以上)	小・中学生	通年利用 (年間パスポート)
個人	480 円	120 円	1,200 円
団体(30人以上)	380 円	90 円	

※ 未就学児は無料。有料公園施設の利用許可に係る使用料の減免に関する事務取扱要綱にて種々の減免を行っている。

2 入園者の状況

■令和5年度 八木山動物公園月別入園者数

(単位：人)

	幼児	小・中学生					一 般					有料 計	無料 計	合 計
		有 料			無 料	計	有 料			無 料	計			
		個人	団体	小計			個人	団体	小計					
4月	11,335	5,432	58	5,490	2,125	7,615	24,123	688	24,811	5,104	29,915	30,301	18,564	48,865
5月	16,430	5,651	794	6,445	3,280	9,725	31,305	2,916	34,221	5,278	39,499	40,666	24,988	65,654
6月	8,802	2,812	1,302	4,114	1,970	6,084	15,891	959	16,850	4,532	21,382	20,964	15,304	36,268
7月	6,207	2,732	179	2,911	2,533	5,444	14,438	104	14,542	3,266	17,808	17,453	12,006	29,459
8月	8,560	5,764	75	5,839	4,318	10,157	24,442	38	24,480	4,300	28,780	30,319	17,178	47,497
9月	9,339	2,784	1,305	4,089	7,056	11,145	17,171	679	17,850	4,569	22,419	21,939	20,964	42,903
10月	14,830	3,134	388	3,522	6,783	10,305	24,545	1,744	26,289	6,912	33,201	29,811	28,525	58,336
11月	11,405	481	64	545	5,349	5,894	15,831	187	16,018	10,724	26,742	16,563	27,478	44,041
12月	3,990	1,130	0	1,130	453	1,583	8,007	39	8,046	2,558	10,604	9,176	7,001	16,177
1月	5,582	1,749	0	1,749	706	2,455	9,803	0	9,803	3,006	12,809	11,552	9,294	20,846
2月	7,068	2,068	0	2,068	775	2,843	13,988	0	13,988	3,382	17,370	16,056	11,225	27,281
3月	10,307	3,565	43	3,608	1,364	4,972	19,445	24	19,469	4,532	24,001	23,077	16,203	39,280
計	113,855	37,302	4,208	41,510	36,712	78,222	218,989	7,378	226,367	58,163	284,530	267,877	208,730	476,607

(資料：管理課)

■令和5年度 八木山動物公園地域別団体入園者数(有料分)

(単位：件,人)

月	市 内		県 内		福 島		山 形		岩 手		そ の 他		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	3	536	1	142	2	68	0	0	0	0	0	0	6	746
5月	20	1,566	21	1,395	6	480	5	269	0	0	0	0	52	3,710
6月	8	328	7	374	7	389	4	209	6	367	10	594	42	2,261
7月	1	40	1	89	1	36	1	44	0	0	1	74	5	283
8月	0	0	1	30	0	0	1	83	0	0	0	0	2	113
9月	6	337	12	836	9	614	2	81	1	31	2	85	32	1,984
10月	17	825	16	979	3	158	0	0	3	170	0	0	39	2,132
11月	2	89	3	162	0	0	0	0	0	0	0	0	5	251
12月	1	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	39
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	1	35	0	0	1	32	2	67
合計	58	3,760	62	4,007	28	1,745	14	721	10	568	14	785	186	11,586
前年度	54	3,852	63	4,683	48	3,618	6	219	11	566	25	1,531	207	14,469
増減	4	△ 92	△ 1	△ 676	△ 20	△ 1,873	8	502	△ 1	2	△ 11	△ 746	△ 21	△ 2,883

(資料：管理課)

■八木山動物公園年度別入園者数

(単位：人)

年 度 別	入 園 者 数	備 考
令 和 2 年 度	324,246	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休園を実施
令 和 3 年 度	365,098	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休園を実施
令 和 4 年 度	495,650	
令 和 5 年 度	476,607	

(資料：管理課)

3 飼育動物

■八木山動物公園飼育一覧表

(令和6年4月1日現在)

綱	目	科	種類	点数	綱	目	科目	種類	点数
哺乳綱	双前歯目	1	1	12	鳥綱	カモ目	1	17	87
	霊長目	6	11	94		ツル目	1	3	4
	兔形目	1	1	34		チドリ目	1	1	1
	げっ歯目	3	5	60		オウム目	2	6	9
	食肉目	7	11	28		フクロウ目	1	4	13
	長鼻目	1	1	3	小計	10目	12	45	159
	奇蹄目	2	4	14	爬虫綱	ワニ目	1	1	1
	鯨偶蹄目	5	7	33		有鱗目(トカゲ目)	2	2	30
小計	8目	26	41	278		有鱗目(ヘビ目)	3	7	24
鳥綱	ダチョウ目	1	1	2	小計	カメ目	6	20	52
	ペンギン目	1	1	8	小計	4目(2亜目)	12	30	107
	コウノトリ目	1	1	3	合計	綱目	科目	種類	点数
	フラミンゴ目	1	3	16		3綱22目	50	116	544
	タカ目	2	8	16		(2亜目)			

■八木山動物公園飼育動物の種類及び点数の推移

	哺乳綱		鳥綱		爬虫綱		計	
	種	点	種	点	種	点	種	点
昭和40年10月31日(開園当時)	50	146	57	206	—	—	107	352
令和6年4月1日	41	278	45	159	30	107	116	544

4 八木山動物公園再整備事業

地下鉄東西線開業を見据えた魅力ある動物公園施設整備として、ビジターセンターや西門広場エントランスを整備すると共に、アフリカ園に至る通路など、園路のバリアフリー化を実施し、平成29年7月には、体験型施設「ふれあい館」の供用を開始した。

平成29年12月に「八木山動物公園運営方針」を改定し、老朽化した施設の長寿命化対策と動物公園の魅力アップのための再整備を行うため、平成30年度に施設長寿命化等計画の検討に着手し、令和3年8月に施設長寿命化再整備計画を策定した。

本計画に基づき、令和4年1月よりエリアI（既存アフリカ園を活かした新アフリカ園として、大型希少動物を中心とした展示エリア）の施設整備に着手しており、引き続き、事業の着実な推進を図っていく。

5 サポーター制度の推進

平成23年1月より、八木山動物公園に対して寄附を行っていただく皆さまを対象とした「オフィシャルサポーター」制度をスタートさせた。

令和5年度末時点でのサポーター認定件数は396件となっており、今後も推進を図っていく。

6 自主財源の確保(ネーミングライツ)

(1) 導入趣旨

新たな収入源を確保し、施設管理運営等のための財源として有効活用するとともに、事業者の方々に企業PRや地域貢献などの場を提供するため、施設命名権(ネーミングライツ)を導入した。

(2) 募集及び愛称

ネーミングライツでは導入趣旨に賛同し、契約料を負担いただく企業等を公募により募集している。また、条例上の名称は変更せず、愛称としている。

現在は、株式会社藤崎と契約を締結し、令和2年度より「八木山動物公園フジサキの杜」の愛称で運用を開始し、令和5年度から令和7年度まで継続となった。

7 各種事業

(1) 種の保存事業

近年、野生動物の生息環境の悪化に伴い、生物種の減少が急速に進んでいる。このような背景をもとに、動物園は希少動物の保護繁殖を図る役割を果たしていくことが強く求められている。

八木山動物公園では、昭和58年よりシジュウカラガンの羽数回復事業を推進し、平成26年には宮城県を中心に1つの個体群を維持するのに最低限必要な数1,000羽を越える1,070羽が飛来し、平成30年にはその数が約5,000羽となるなど、渡り鳥の復活に大きな成果を残した。

また、八木山動物公園では、絶滅危惧種であるクロサイのオス・メスを平成29年11月にペア形成し、平成31年2月にメス1頭の繁殖に成功している。令和元年10月には希少動物であるスマトラトラの繁殖に成功した。北海道大学と連携して人工授精に取り組んできたホッキョクグマについては、生育には至らなかったが、令和4年11月に2頭、令和5年12月には1頭の繁殖に成功している。

さらに、平成30年に開始した東北3園アフリカゾウ繁殖プロジェクトでは、秋田市大森山動物園とメスのアフリカゾウを交換し、北海道大学、北里大学、岐阜大学と連携して繁殖に向けた研究を進めている。

(2) 環境教育事業

平成19年9月に宮城教育大学と連携協力の覚書を締結し、「動物公園を活用した環境教育プログラム」の作成と活用により、これまで環境教育の機会を増やしてきた。

平成29年7月に供用開始した「ふれあい館」を中心に、動物とそれらを取り巻く環境について楽しみながら学んでもらうための様々な教育プログラム(学習プログラム・団体ふれあい等)を実施している。また、園内の教育活動を1冊にまとめて紹介する「学びのガイドブック」を作成し、県内の学校等に配布しているほか、当園のホームページでも各種教育プログラムを案内している。今後も引き続き学習施設としての機能を充実させていく。

(3) マダガスカル関連事業

平成 20 年 5 月、マダガスカル共和国のチンバザザ動植物公園と協力協定を締結し、同国固有の動物種の保護、保全を目指している。

平成 28 年度から令和元年度まで JICA 草の根技術協力事業を活用して職員や専門家の相互交流を行い、飼育技術及び獣医療技術の移転や環境教育プログラム作成などの啓発活動を実施した。また、園内での普及啓発イベントも開催している。今後も引き続き同国の生物多様性保全に協力していく。

(4) 普及啓発事業

今までの動物園は、世界中の珍しい動物を集め見せることに主眼が置かれていた。しかし、現在の動物園における社会的役割は、単に珍しい動物を見せるのみではなく、動物を通して環境や命について考えてもらう場となってきている。それを踏まえ、各種イベント等の開催により動物公園の魅力アップを図っている。

(令和 6 年度実施予定のイベント等)

- 1 有料えさやり体験（モルモット、アフリカゾウ、ニホンザル、ヤギ）
- 2 ふれあい事業（ウサギ、モルモット、ヤギ、ヒツジ、フリーフライト観察等）
- 3 ゴールデンウィーク期間事業（動物とのふれあい、えさやり体験等）
- 4 動物のおはなし
- 5 サマースクール（小学生の飼育体験）
- 6 夏休み親子体験教室
- 7 爬虫類館閉館イベント（爬虫類の給餌公開、給餌体験）
- 8 ホッキョクグマに氷のプレゼント
- 9 ナイトズージアム 2024（夜間開園）
- 10 ドリームナイト・アット・ザ・ズー
- 11 写真コンクール，作文コンクール，写生大会
- 12 Fujisakiday（株式会社藤崎が主催するイベント）
- 13 動物感謝祭
- 14 開園記念日イベント
- 15 八木山フェスタ（八木山ベニーランド，東北工業大学，八木山市民センター，東北放送との共催事業）
- 16 マダガスカルデーイベント
- 17 動物園セミナー
- 18 教員向け動物園活用セミナー
- 19 オフィシャルサポーターイベント
- 20 正月臨時開園イベント
- 21 裏側探検隊（動物舎のバックヤード見学ツアー）
- 22 各種動物の日特別イベント（国際レッサーパンダデー、世界サイの日等）